

CeMI 気象防災支援・研究センター
News Letter

Contents

1. 南岸低気圧による大雪について
2. 雪害
～最近の傾向と新しい雪の予報
3. お天気よもやま話
～気象神社



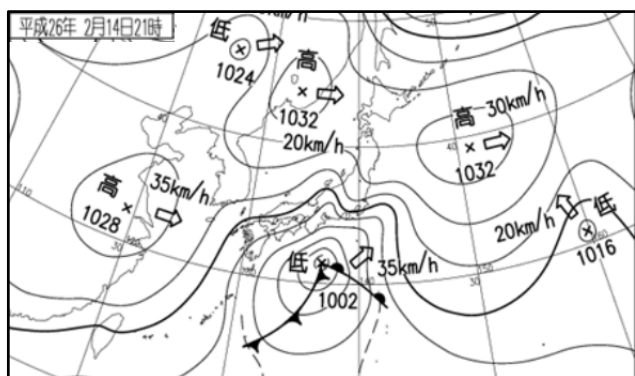
1 南岸低気圧による大雪について

冬の真っ盛りを迎えています。

天気予報などでは、西高東低の強い冬型の時、大雪に「警戒」を呼び掛けています。この場合は、対象としている地域は主に日本海側を中心とした地域です。

このような場合には、太平洋側では、一部の地域を除いて大雪になることはほとんどありません。逆に、関東では北西方向に3000m級の山脈が連なっており雪雲が入ってこられず「快晴」が続くことになります。

では、太平洋側では大雪になることは無いのでしょうか？そんなことはありませんね。太平洋側で大雪になるケースは「南岸低気圧」があります。



天気図は2014年（平成26年）2月14日21時のものです。

南海上に低気圧があって北東へ進んでいます。このように日本の南岸付近からおおむね八丈島付近までの間を東～北東へ進む低気圧を南岸低気圧と呼んでいます。

この2月14日の事例は、午前中から雪となって、内陸部では翌日の明け方まで雪が降り続けました。東京では最新積雪が27cmを観測しています。甲府では、これまでの観測記録を65cmも上回るなんと114cmを記録しました。前橋でも73cmを記録し、関東の内陸部ではこれまでの観測記録を大幅に上回る状況となりました。まるで、日本海側の大雪のような状況となって、各地で交通障害や孤立集落が発生し、ビニールハウスなどの倒壊などの被害が発生しています。

この事例のように、太平洋側では「強い冬型」ではなかなか大雪にはなりません（特に関東）、南岸低気圧によって大雪となることがあります。これらの地域では、普段は大雪となることが少ないために、たとえ大雪とならない場合でも、5cm積雪があっただけで、雪への備えが十分でないために交通障害などで大きな影響を受けることがあります。

南岸低気圧によって雪が予想される場合は、雪への備えを気象情報で呼びかけます。気象情報を活用して雪への備えをお願いします。



2 雪害 ~最近の傾向と新しい雪の予報

日本は世界的にみても稀な多雪地域で、特に日本海側の地方は、年によっては豪雪と言えるレベルの雪が降ることがあります。短い時には1日程度、長い時には1週間から10日くらい断続的に雪が降り続くこともあります。雨による水害との違いは、降った雪が積雪としてどんどん降り積もっていくことで、降り積もった雪は人々の生活に大きな支障や危険をもたらします。最近では、屋根に積もった雪を落とすための作業や道路の除雪の際などに犠牲となる方も少なくありません。近年の大雪による犠牲者のほとんどはこうした除雪作業中の事故によるものです。

今から30年以上前、1980年代までは雪崩による災害がたびたび起こっていましたが、近年では昭和61〔1986〕年1月、新潟県の能生町柵口〔のうまちませぐち〕地区で集落が雪崩に襲われて13名の方が亡くなって以来、幸いなことに雪崩による大規模な集落の被害は発生していません。雪崩被害は減少しましたが、国土交通省の調べでは雪崩危険箇所は全国で2万を超えており、雪崩による危険が小さくなったということではありません。一方、近年は大雪による交通障害が目立ってきています。物流が国道や高速道路を使ったトラック輸送中心となり、大

雪による通行マヒは運転者に危険をもたらすだけでなく、私たちの生活に直接的な影響をもたらします。



数値予報の精度の向上などにより、大雪をもたらす強い寒気の南下の予測も可能になりました。大雪が予想される際には気象庁から大雪に関する情報が発表されるほか、現在は約5km格子ごとに6時間先までの降雪量と積雪の深さの予報が行われており、気象庁のホームページ〔今後の雪〕でいつでも見るできるようになりました。このような情報や予報を利用して事前に雪へ備え、早めに対策を講じることで雪害の防止につなげたいものです。

気象庁 今後の雪（降雪短時間予報）
<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/#lat:37.195331/lon:137.087402/zoom:5/colordepth:deep/elements:snowd>

3 お天気よもやま話 ~気象神社

日本には多くの神社仏閣がありますが、ユニークな神社のひとつが東京のJR中央線の高円寺駅からすぐのところにある日本で唯一の気象神社です。気象神社は1944年、高円寺にあった旧日本陸軍気象部の構内に造営されたもので、戦後、同じ高円寺にあった氷川神社の境内に遷座されました。毎年、6月1日の気象記念日に例大祭が行われます。

高さ2メートル前後のこじんまりした建物に奉られているのは八意思兼命〔やごころおもいかねのみこと〕という神様。日本一もの知りで知恵の神様ということです。

毎年、元旦の朝、日の出の頃に初詣に出かけますが、氷川神社の本殿の参拝とともに、気象神社にお参りする人もあとを絶ちません。また、知恵の神様のため受験シーズンの参拝や日本で唯一の気象に関する神社ということもあって、年度初めの4月には民間の気象会社のお参りも見られます。短い参道ですが、脇には絵馬が鈴なりに結びつけられています。この絵馬がまたユニーク。一般的な五角形の絵馬では

なく“下駄”の形をしたものです。絵馬に書かれた願いごとは旅行や結婚式の際の晴天を願うものが圧倒的に多く、変わったものでは気象予報士試験や気象大学の合格祈願なども。また、「雨男」や「雨女」からの“解放”を願う切実な絵馬や最近では気象災害に関するものも目にとまるようになりました。



四季の変化に恵まれ、豊かな気候風土の日本ですが、先人達も気象災害に悩まされてきました。八意思兼命の神様にはこれからも益々活躍していただき、晴天や試験の合格だけではなく、気象災害の防止にも尽力していただきたいものです。防災は一人ひとりの心がけと行動が大切ですが、毎年、元旦と梅雨入り前には気象神社への神頼みも欠かせず続けています。



掲載内容へのご意見、そのほかサービスに関するご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡ください。

NPO法人 環境防災総合政策研究機構(CeMI)

気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22ローヤル若葉606号

<http://www.npo-cemi.com/center.html>

☎ 03-3359-7971

☎ 03-3359-7987

✉ advisory@npo-cemi.com

